



日ノ岬にアメリカ村があり  
カナダに日本人の住む村がある  
昔 波濤を超えて  
村人が海を渡った  
苦しみも 喜びも  
時をへた今 望郷の念となって  
胸に迫ってくる

## 美浜町3世代プロジェクト

今日、都市部を中心に日本の各地で当たり前のようにインバンドを目にするようになったが、異邦との関係構築は地方自治レベルですと昔より実施されてきた。しかし、長年築き上げてきた外国と国内の地域を結ぶ姉妹都市的な密接関係やそういった歴史は時間の経過と共に衰退している現状がある。

和歌山県日高郡美浜町にある三尾の町は古くからカナダ西海岸はブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバー国際空港が位置するリッチモンド市と姉妹都市である。同市内にある港町、スティープストンの公園内にはカナダ在住の日系人から成る和歌山県人会の記念碑と日本庭園（工野庭園）が併設されている。

凡そ130年前、三尾の大工であった工藤儀兵衛が渡加を決議して以来、三尾は「アメリカ村」として異邦文化との連携と発展に貢献してきたが、その姉妹都市としての活気は近年の少子高齢化問題や若者の地方離れといった今日の日本社会の抱える諸問題に拍車を掛けられながら失われつつある。筆者も含め、これからの日本社会の担い手である若者世代にとって地方自治の抱える問題は早

計に無視することのできない重要課題である。

三尾とスティープストンの姉妹都市関係は、異なる文化をそれぞれの地域の持つ特有文化と融和させる事により、互いの更なる発展を後押しする相互関係にある。例えば、異文化交流を通じて三尾の「アメリカ村」としての魅力の新たな拍車をかける事が出来れば、三尾の新たな人口獲得や事業拡大に可能性を見出すことができる。地方創生とはその時代に適した新たな町づくりを手がける事であり、グローバルを問われる今日こそ多文化で多種多様な人材が交わる新たな町の再起に意義がある。

現在、和歌山県美浜町三尾の創成をかけたプロジェクトが既にオンゴーイングで始動している。先に述べた通り、リッチモンド市と美浜町三尾は姉妹都市関係にあるが、その姉妹都市としての活気を取り戻す必要がある。そこで「3世代」に焦点を定めた「アメリカ村の再起プロジェクト」を始動させた。なぜ「3世代」に焦点を当てるのか。祖父、父母、子の世代を超えた家族の繋がりを意味してい

るが、これは今の日本が欠いているものであると筆者は考える。

父親の赴任や子の東京、地元に取り残される祖父など一家離散ともいえるこの生活様式は現代の日本ではごく当たり前になっている。特に都心部では、隣三軒に誰が住んでいるのかも分からないなど日常生活で横のつながりを感じる機会も減多なものとなりつつある。家族や地域住民といった身の回りのつながりを取り戻さずして、果たして異国文化との繋がりを取り戻す事が十分に出来るだろうか。ここで「3世代」にはそんな常日頃の個の繋がりを目指した意味が込められている。

この「3世代」プロジェクトはリッチモンド市目を向けるとより深くその重要性を知る事が出来る。現地では日系人コミュニティが今尚確立されており、スティープストン日本語学校をはじめ周辺にはその昔同市の漁業開拓に移民として貢献してきた日本人漁師宅など古くからの移民文化、日系人そして同市との歴史が今日まで伝承され続けられてきた。親から子へ、そしてまたその子へと世代を超えて受け継がれてきた歴史をステイ

1プストンの町では感じる事が出来る。カナダにおける日系人の移民文化は今日も廃れる事なく生き続けている。それは美浜町三尾が再び「アメリカ村」としての活気を取り戻した時に感じる事の出来るものでもあるのだろう。

金丸 連  
1999年生まれ、東京都目黒区出身。2014年、中学2年の夏休みに欧米での在住経験のある両親と兄の影響でカナダでの短期留学に挑戦。幼少期から続けているスキーの全日本資格SAJ1級を中学3年時に取得したこともあり、中学校卒業後、ウィンタースポーツの盛んなカナダB・C州での高校留学を決意。2018年9月、高校卒業後、日本にて大学を受験。2019年4月から上智大学総合グローバル学部に入学決定。現在、翌年の入学までの間、港区赤坂のホテルにて社会勉強中。

## ふるさとの歴史・文化遺産を継承し、

## 蘇る和歌山県美浜町



## NPO法人 日ノ岬・アメリカ村 カナダミュージアム

明治以来、美浜町三尾はカナダへ多くの移民を送り出した地域であり、その移民した人達が帰国後にカナダでの暮らし、文化を三尾に根付かせました。又、そのシンボルでもある民家をカナダミュージアムとして彼らの歴史と地域にもたらした文化、カナダでの足跡を展示し、その軌跡を後世に伝えていく施設です。



※「遊心庵」と「すてぶすとん」の写真：NPO法人 日ノ岬・アメリカ村ホームページより

**ゲストハウス 遊心庵**

遊心庵はカナダから帰国されたカナダ移民の方が昭和8年（1933年）頃に建てられた建物です。カナダ移民の歴史や文化を伝える施設のひとつで、建設当時のアメリカ村を象徴する和洋折衷の様式が残されている貴重な建物を保存しつつ、ゲストハウスとして当地を訪れる方々の宿泊施設として活用されています。

**アメリカ村食堂 すてぶすとん**

「すてぶすとん」は工野儀兵衛が最初に渡ったカナダの港町「スティープストン」を三尾なまり風にした名前です。美浜町や近隣の新鮮な食材を活かしたお料理や、カナダ風の食材や調理をしたお料理も提供いたします。店内はカナダの港町のパブレストランをイメージしており、お料理や地元三尾の方との交流の場となっております。

NPO法人 日ノ岬・アメリカ村より

## 美浜町出身、スティープストンのレジェンド漁師

村尾敏夫さん(99歳)



難波三津子先生  
去る二十三日、晩香波空港を発って長い空路の旅も無事終えられお元気に日本の自宅に帰られた事とお喜び申し上げます。先生が今回の訪加で色々楽しい事もあった事と思われませんが、矢張り一番嬉しかった事は可愛い初孫に会われた事だったと思われま。私も初めてお会いし、抱かして貰った時は、人目も気にせず私の顔を見てニコリ笑ってくれた其の時の可愛かった顔、未だに其の時の可愛かった顔が目の前に浮かんで来ます。お孫さんと別れて行く先生は一番淋しい思いをされた事と思はれます。先生は色々仕事も多く毎日忙しい日を送っておられる事と思はれますが、暇を見て可愛いお孫さんの顔を見に来てあげてください。後になりましたが、先生が忙しい時間を割いて私の様な人間に会いに来てくれた事に心から感謝しています。折角来て頂いた時、家内の健康も思わしくなく何の構いもできず本当に済みませんでした。今日日本は極暑続きで大変と思いますが充分健康にお気をつけられます様遠く離れたカナダより願っています。乱筆拙文で申し訳ありませんが、お許しください。 敬具 村尾敏夫

村尾敏夫:和歌山県三尾村(現・美浜町)出身の両親の元、1920年ブリティッシュ・コロンビア州リッチモンド市のスティープストンで生を受けた。3歳の時、日本の教育を受けるために母と郷里へ。尋常小学校から尋常高等小学校へ進み再びカナダに戻ったのは1936年(16歳)。1 日系漁師が日本とカナダの相互理解と友好親善とに寄与したことに対する表彰状を受賞。2, 3 1964購入の船に横綱・大鵬幸喜のKOKIを船名と息子に。

## 三尾 カナダ移民の歴史

130年前、美浜町三尾村の出身・工野儀兵衛が開拓したスティープストン港には日の丸国旗が飾られている。工野公園内にはスティープストン・日本語学校、空手などカルチャーセンターもある。



明治21年(1888年)、ここ三尾村の大工・工野儀兵衛は外国船の船員をしたことのある従兄を頼って横浜に行き、単身日本を出発、カナダに渡った。儀兵衛34歳、ふところにはわずか15銭、老いた両親、妻と幼い子供を置いての旅立ちであった。彼を海に向こうに駆り立てた背景には一体何があったのだろう。やがて儀兵衛は日本の約26倍の国土を有するカナダ、バンクーバーへと辿りついた。新天地での生活は厳しい労働と孤独な日々が続いたが、広大無辺のカナダの大自然が儀兵衛を勇気づけた。そこで目にしたのはフレーザー河を争うように潮流する鮭の大群だった。「これだ!」父の七兵衛は一本釣り漁師であった。儀兵衛に漁師の血が蘇ったのかも知れない。「みんなカナダに来い、ここにはサラン(鮭)が折り重なって泳いでいる!」やがて村人は次々とカナダに渡った。男たちは鮭漁に従事し、婦人たちはその鮭の缶詰工場で黙々と働き、現地での信頼を勝ち得ていった。三尾村は日本のカナダ移民の先駆けとなった。儀兵衛の生涯は、和歌山県移民史の1ページを刻んだ。彼は強じんな意志と心暖かい人柄で遥かなる異境の地において、パイオニアの役割を見事に果たした。儀兵衛と彼につづけて自らの意思で海を渡った三尾村の人々には海を恐れない、勇敢な渡航者の精神があふれていた。



工野儀兵衛

※フリーレット:日ノ岬・アメリカ村 カナダミュージアムより